

## はしがき

本書は国家、政治、国際関係などを専門とするアフリカ地域研究者によって編まれた論文集である。サハラ以南アフリカのムスリムが国家や政治との関わりのなかでどのような存在であったのかを解明しようと試みている。とりわけ本書では、歴史を遡って、国々が国家としてのかたちをとって確立されてくる時期や過程を視野に収め、各国の国家形成史のなかでのムスリムの関与を具体的かつ詳細に描き出そうとした点が特徴である。事例としてナイジェリア、ケニア、ソマリア、フランス領西アフリカ、南アフリカをとりあげている。

サハラ以南アフリカのイスラームに関する研究は、宗教学、人類学、歴史学などの分野で大きく進んでいる一方で、政治・政治史研究の分野での進展はまだこれからという状況かと思われる。サハラ以南アフリカのイスラームについて国家と政治との関連において考察する研究のささやかな一歩となるべく、本書を提示するものである。

また、本書は、アジア経済研究所が2020年度から本格的に刊行する電子書籍のシリーズの一巻として発表される。このシリーズは研究所が実施する専門的な研究成果を、ひろくアクセス可能なかたちで公開するというオープンアクセスの考えに基づいたものである。EPUBとPDFの2つのフォーマットが利用可能であり、研究所ウェブサイトから無料でダウンロードできる。アフリカやイスラームにご関心をおもちの方々に、ぜひ気軽にダウンロードしていただき、一読いただければ幸いである。

編者